

和名	分類	特徴ほか	会える場所											
ウラゴマダラシジミ	シジミチョウ科	上品な白の斑入り薄紫	ハイム (中野島)	多摩川土手 (中野島周辺)	生田緑地	その他								
			x	x	△	全国								
			成虫発生時期（月）											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
			食草　○ 食樹		発生回数/年		越冬形態							
			イボタ		1		卵							



川崎市 5月28日(2019年)

ウラゴマダラシジミはゼフィルスの中では最も早く出てくる蝶の一つで、シジミチョウにしては大型なので飛んでいるとなかなか迫力があります。生田緑地では、数は極めて少なく川崎市青少年科学館発行の「生田緑地の蝶」でも「よほど幸運にめぐまれないとお目にかかれない」とされています。左の写真は20年目にして、やっと生田緑地で姿を見つけて撮影したものです。



横浜市 5月28日(2020年) 食樹イボタで吸蜜



横浜市 5月28日(2020年) イボタに飛来



長野県南佐久郡 7月24日(2007年) 食樹のイボタにとまる



横浜市 5月16日(2021年) イボタで見つけた蛹



日野市 5月21日（2023年）気温が上がり水分を求めアワフキムシの泡に飛来



↑ 日野市 5月24日（2023年） アワフキムシの泡への飛来が続く

日野市 5月24日（2023年） アワフキムシの泡を取り除くと正体を表した。カメムシ目に属し成虫になると泡とは縁がなくなり自由に飛べる

↓



日野市 5月24日（2023年）♀ 羽化後下草を這い上がり翅を延ばす



日野市 5月24日（2023年）♀ 樹上へ（上記と同一個体）



↑ 日野市 5月29日（2022年）
さながらスポットライトを浴びてデビューのステージに立っているような・・・